

琉球大学学術リポジトリ

うつ病とその治療に対する一般住民の意識と態度の改善に焦点化した啓発講演の有用性について

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学 公開日: 2018-06-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Yakushi, Takashi, 薬師, 崇 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/41465

(別紙様式第 7 号)

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

報告番号	課程博 * 第 号 論文博	氏名	薬師崇
		審 査 日	平 成 30 年 3 月 7 日
論文審査委員		主 査 教 授	大 塚 裕 輔 (印)
		副 査 教 授	石 井 勝 吾 (印)
		副 査 教 授	青 木 一 雄 (印)
(論 文 題 目)			
Usefulness of an educational lecture focusing on improvement in public awareness of and attitudes toward depression and its treatments (うつ病とその治療に対する一般層の意識・態度を改善させることに特化した啓発講演の有用性について)			
(論文審査結果の要旨)			
上記論文について、研究に至る背景と目的、研究内容、研究成果の意義と学術的水準について慎重に検討し、以下のような審査結果を得た。			
1. 研究の背景と目的			
うつ病対策は自殺予防の要諦であるが、一般層の偏見や誤解は根強く、疾病否認や受診への抵抗感が強力な阻害因子となっている。一般層におけるうつ病およびその治療に関する意識と態度について、申請者らが過去に報告した独自の調査項目を用いて包括的な評価を行うとともに、2種類の講演による介入を行い、意識や態度におよぼす影響を比較検討した。			
2. 研究内容			
一般講演(うつ病の一般的知識と治療の概要に関する教育:467名)または焦点化講演(うつ病やその治療にまつわるスティグマの緩和を志向した教育:367名)に参加した834名の一般住民が対象となった。			
講演前後において、スティグマ8項目(恐怖、知識不足、性格の弱さ、恥、迷惑、現実逃避、自覚への過信、自己制御への過信)および治療への構えに関する10項目(援助希求、家族への相談、一般医受診、精神科受診、カウンセリング志向、薬物療法への抵抗感、薬物依存への不安、薬物療法の効果判断、維持療法の必要性、うつ病患者への励まし)について自記式調査を行い、5段階で評価した。全項目の介入前の値を因子分析し、各因子に与える性および年齢の影響を検討した。また、介入後のうつ病および治療に対する認識・構えに与える影響について重回帰分析を行った。			
「疾病モデル認識」、「援助希求行動」、「うつ病への否定感情」および「非薬物療法的な解決志向」の4因子が抽出された。高齢者においては、介入前後とも「疾病モデル認識」が低く、「うつ病への否定感情」が強く、若年者では「援助希求行動」が低かった。焦点化講演は一般講演よりも「疾病モデル認識」、「うつ病への否定感情」、「非薬物療法的な解決志向」を是正した。4因子の介入後の値はそれぞれの介入前の値の影響を最も強く受け、介入前の「疾病モデル認識」は介入後の「うつ病への否定感情」、「非薬物療法的な解決志向」にも有意な影響を与えた。			

3. 研究結果の意義と学術的水準

一般層のうつ病および治療に関する認識・構えを、背景因子や啓発介入の手法の違いを総合的に含めて包括的に調査した報告は極めて少なく、本邦においては本研究がその端緒となる。

啓発講演をより効果的に行うためには、年齢による認識・構えの違いおよび介入効果の限界を考慮に入れるべきであることが強く示唆された。焦点化講演は疾患モデル認識を高める点で標準的な適用が期待された。若年者の援助希求行動を高めるためには、講演形式よりもむしろ別の介入戦略を検討する必要がある点も示唆された。

以上、本研究の成果は、エビデンスのある自殺予防戦略を遂行する上で極めて意義深いデータを提供するものであり、国際的にも高い学術水準にあり、本論文は学位授与に十分に値するものであると判断した。

- 備考
- 1 用紙の規格は、A4とし縦にして左横書きとすること。
 - 2 要旨は800字～1200字以内にまとめること。
 - 3 *印は記入しないこと。